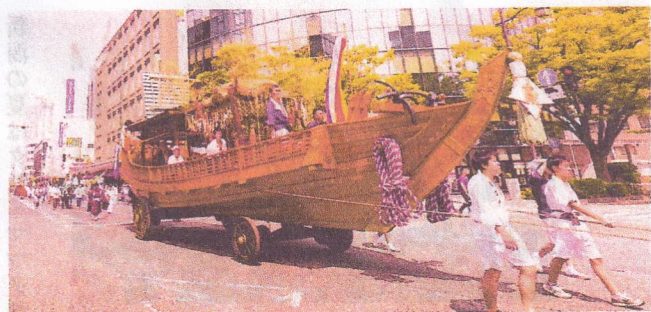




新潟の夏の夜空を焦がす大花火大会。新潟まつりを締めくくります。



新潟のメインストリート砦谷小路より萬代橋へ。住吉大神さまを乗せた御座船が通ります。

市民みこしの宮入

お囃子の音、威勢のよい掛け声とともに、大勢のみこしの担ぎ手が古町通りを練り歩き、白山神社を目指します。薄暮の中、幻想的にライトアップされたお社に、手古舞、木遣りに続いて宮入。本殿前にずらりと並ぶ圧巻のみこしと担ぎ手の熱気で、まつりの興奮は最高潮に。



白山さまなるほどトピック

白山神社と住吉行列

住吉行列の起源から三〇〇年
令和八年の節目に
祈りと想いを込めて

市民に親しまれている「新潟まつり」の起源は、延宝八年（一六八〇）創建の住吉さまを祀る湊元神社。現在の本町十三、十四番地の洲崎町の湊元神社からの行列に始まったと伝わります。享保十一年（一七二六）に行列を組むまつり「住吉祭」が行われました。やがて行列は、寛保三年（一七四三）頃に町全体の「湊祭」に発展。延享五年

（二七四八）、白山神社境内に住吉神社が建立され、その後、湊元神社の住吉さまも合祀されています。まつりの日。白山神社から出発した

「住吉行列」の御神輿は、新潟市の古町や萬代橋（国指定重要文化財）を通り、古式ゆかしい装束が往時の歴史を魅せながら、市街地一帯をねり歩きます。行列の御神輿は安政五年（一八五八）の建造。湊町新潟の商売繁盛・海上守護の住吉さまの御御霊（おみたま）は御神輿に遷され、御座船に奉載されて信濃川を船で渡る「水上渡御」へ――。

「新潟まつり」をいろどる「住吉行列」は、令和八年（二〇二六）に三〇〇年の大きな節目を迎えます。時代は変われども、海の安全を願う古くから続く神

事は、厳かに、また華やかに。時代絵巻さながらの行列は、現在も人々に伝統文化の継承と歴史の重さを伝えます。厚い信仰を集め、湊町を見守り続ける新潟総鎮守・白山神社。「住吉祭」「新潟まつり」を大切に、これからも。みなさまの幸せを願う場所であり続けます。



昭和30年頃の住吉行列



現在の住吉行列